整理番号：jcam-6007
改定日：2022年4月4日

製品安全データシート

１　製品及び会社情報

製品名	；くみあいハイパーＣＤＵ・ＬＰコート・被覆硫酸加里入り複合６８４－ＡＢ８０号
別名	；ハイパーＬＰ複合ＡＢ８０　春トマト一発
会社名	；全国農業協同組合連合会
担当部署	；耕種資材部
住所	；〒100-6832　東京都千代田区大手町1-3-1　JAビル33F
電話番号	；03-6271-8285
ＦＡＸ番号	；03-5218-2536
e-mail	；zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先	；03-6271-8285

推奨用用途及び使用上の制限；肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないでください。

２　危険有害性の要約

製品のＧＨＳ分類

物理化学的危険性	可燃性固体	：区分に該当しない
	自然発火性固体	：区分に該当しない
	酸化性固体	：区分に該当しない
	金属腐食性物質	：区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	：区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	：分類できない
	急性毒性（吸入）	：分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	：分類できない
	目に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：分類できない
	呼吸器感作性	：分類できない
	皮膚感作性	：分類できない
	生殖細胞変異原性	：区分に該当しない
	発がん性	：区分１Ａ
	生殖毒性	：分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：区分に該当しない

製品安全データシート

	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	： 区分に該当しない
	誤えん有害性	： 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	： 分類できない
	水生環境有害性　長期（慢性）	： 分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報　発がんのおそれ

注意書き

【安全対策】 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護眼鏡、保護手袋を着用すること。
取り扱い後は手をよく洗うこと。
粉じんを吸入しないこと。
換気の良い場所で使用すること。

【救急処置】 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診察／手当を受ける事。
眼に入った場合には、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。

【保　　管】 施錠して保管すること。

【廃　　棄】 製品又は容器を廃棄する場合は、国及び地方自治体の規則に従うこと。

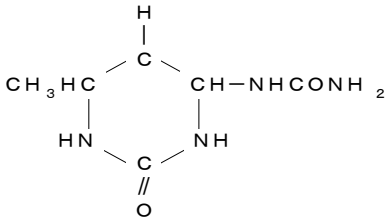
3　組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：混合物

化学名又は一般名　：指定配合肥料

主成分		含有量※1）(%)	化学式	官報公示整理番号（化審法・安衛法）	CAS No.
LP コート	尿素	25～30	$(NH_2)_2CO$	2-1732	57-13-6
	樹脂組成物※2）	10 未満	-	-	-
過燐酸石灰		35～40	$Ca(H_2PO_4)_2+CaSO_4$	-	-

製品安全データシート

硫酸カリウム	10～15	K_2SO_4	1-454	7778-80-5
CDU	10～15		947	1129-42-6
ホワイトカーボン	10未満	SiO_2	－	112926-00-8
シリカヒューム	1未満	SiO_2	－	69012-64-2
クレー*3)	1未満	SiO_2	－	14808-60-7

※1）含有量は代表的な分析値であり、若干の幅で変動する。

※2）ポリエチレン、ポリエチレン系樹脂・その他

※3）クレー：硫酸カリウム造粒時の添加材として使用、結晶質シリカを約90%含有

労働安全衛生法に基づく、名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

結晶質シリカ（クレーに含有）　約0.1%

化学物質排出把握管理促進法に基づく対象物質

該当なし

4　応急措置

吸入した場合　:分解ガスや粉塵の場合は、新鮮な空気の場所に移し安静にさせ、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合　:水で洗い流す。

眼に入った場合　:1. 直ちに多量の清水で洗眼する。
2. 必要に応じ医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合　:意識があるときには、飲んだものを吐き出させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

5　火災時の措置

適切な消火剤　:多量の水

使ってはならない消火剤　:情報なし

火災時の危険有害性　:火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

特定の消火方法　:本製品は不燃性であるが、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動が困難な時は、周辺を水噴霧で冷却する。

消火を行う者の保護　:消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
状況に応じて呼吸保護具を着用する。

製品安全データシート

6　漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護マスク等を着用し、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。可燃性物質に着火した場合に備えて、消火機材を準備する。
環境に対する注意事項	:河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。排水溝へ流さない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	:掃き集めて回収する。

7　取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	:発散した粉じんを吸いこまないように、必要に応じて適切な保護具を着用し、取扱い後は顔、手、口等を水洗いする。
接触回避	:可燃性物質との近接は避ける。
安全取扱注意事項	:1. 床にこぼれた粒で足元が滑り、転倒する事があるので、掃除する。 2. 容器は破損につながらないよう丁寧に取り扱う。

保管

安全な保管条件	:1. 開封のまま長期間放置すると、吸湿して固結の原因となるので、開封後は密封して保管する。 2. 直射日光を避け、高温・多湿下での保管は避ける。 3. 可燃性物質との近接は避ける。
安全な容器包装材料	:ポリエチレン、ポリプロピレン

8　暴露防止及び保護措置

設備対策	:発塵を起こさぬ装置機械を使うか、局所排気装置を使用する。
管理濃度	:設定なし。
許容濃度	:日本産業衛生学会、ACGIH共に、本品の設定はないが、粉塵対応として、下記の値を推奨する。 日本産業衛生学会勧告値（2020年）第２種粉塵 吸入性粉塵　1　mg/m^3 総粉塵　4　mg/m^3

保護具

呼吸器の保護具	:防塵マスク
手の保護具	:ゴム手袋
目の保護具	:ゴーグル型眼鏡
皮膚・身体の保護具	:長袖作業衣

9　物理的及び化学的性質

物理的状態	:固体
色	:灰白色
臭い	:データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	:データなし
可燃性	:データなし
ｐH	:データなし

製品安全データシート

溶解度
　溶解性（水）　　：可溶
　（その他の溶媒）　：エタノールに難溶
蒸気圧　　：データなし
密度　　：データなし
粒子特性　　：粒径範囲 1～4㎜
その他のデータ
　かさ比重　　：約 1.0

１０　安定性及び反応性

反応性　　：データなし
化学的安定性　　：通常の取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性　：データなし
避けるべき条件　　：高温、多湿
混触危険物質　　：データなし
危険有害な分解生成物　：データなし

１１　有害性情報

急性毒性（経口）　：区分に該当しない
構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。
＜尿素＞
ラット LD_{50} ♂14,300mg/kg ♀15,000mg/kg
マウス LD_{50} ♂11,500mg/kg ♀13,000mg/kg
以上のデータに基づき、区分に該当しないとした。

急性毒性（経皮）　：分類できない　データなし
急性毒性（吸入）　：分類できない　データなし
皮膚腐食性/刺激性　：分類できない
構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。
＜尿素＞
ヒトの試験では 7.5%で Slight irritation、30%で moderate との報告がある(48 時間)。
ICSC では皮膚に対し発赤と記載されている。
ウサギの試験では刺激性は認められていない。
上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019 の表 B.4 の判定基準（皮膚刺激性の区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：分類できない
構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。
＜尿素＞
ICSC では眼に対し発赤と記載されている。
ウサギの試験では刺激性は認められていない。
上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019 の表 B.8 の判定基準（可逆的な眼への影響に関する区分）を満たす

証拠がなかったため、分類できないとした。

呼吸器感作性　：分類できない　データなし

皮膚感作性　：分類できない　データなし

生殖細胞変異原性　：区分に該当しない

構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。

＜結晶質シリカ＞

in vivo 変異原性のマウスの骨髄小核試験が陰性であったことから、区分に該当しないとした。なお、OECD ガイドラインにはない特殊な in vivo 試験系（気管内投与されたラットの肺上皮細胞における hprt 変異の測定）において突然変異陽性を示す（炎症作用による可能性あり）など、「試験結果が相反しており、遺伝毒性の評価はまだ確定していない」とされている。また、in vitro 変異原性においては、Ames 試験のデータはなく、染色体異常試験で陰性、小核試験で陽性の知見がある。ただし、この含有量は 1%未満のため区分に該当しないとした。

発がん性　：区分１A

構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。

＜結晶質シリカ＞

ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質の粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない（IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012)）。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が結晶質シリカに対して、「第 1 群」に（産衛学会勧告 (2015)）、ACGIH が 2004 年以降、本物質に対し「A2」に（ACGIH (7th, 2006)）、NTP が 1991 年以降、結晶質シリカ（吸入性粒子径）に対して、「K」に分類している（NTP RoC (13th, 2014)）。よって、本項は区分 1A とした。

生殖毒性　：分類できない　データなし

特定標的臓器毒性　：区分に該当しない

（単回ばく露）

構成成分である下記物質について次のような有害性情報がある。

＜シリカヒューム＞

本物質は気道刺激性があるとの報告（ACGIH (7th, 2001)、ECETOC JACC (2006)）から、区分 3（気道刺激性）とした。

上記構成成分が区分 3 であり、成分濃度が 20%以下であることから、区分に該当しないとした。

＜結晶質シリカ＞

データ不足のため分類できない。

なお、旧分類のヒトにおける呼吸器影響の

データは短期ばく露であり、単回急性影響のデータではない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分に該当しない
構成成分である下記物質について次のような有害性情報がある。
＜シリカヒューム＞
ヒトにおいて、慢性あるいは反復の吸入ばく露により珪肺症と同様なレ ントゲン所見を伴った金属ヒューム熱のような回帰性熱を起こす。しかし、肺の変化は自然に回復することが報告されている (ACGIH (7th, 2001))。
実験動物において、ラット、モルモット、サルに 15 mg/m3 (0.015 mg/L) を 12～18 ヶ月間吸入ばく露した試験で、いずれの動物種においても肺の単核細胞の集合体の増加、細網線維がみられ、さらにサルでは膠原線維がみられている (DFGOT vol. 2 (1991))。
以上のようにヒトにおいて呼吸器への影響がみられ、また、実験動物、特にサルにおいて区分 1 の範囲で肺に膠原線維がみられている。
構成成分が成分濃度 1.0%未満であることから、区分に該当しないとした。
＜結晶質シリカ＞
Priority 1 文書に、ヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼすとの記述がある。ただし、この含有量 1%未満のため区分に該当しないとした。

誤えん有害性：分類できない　データなし

１２　環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性短期（急性）：分類できない　データなし
水生環境有害性長期（慢性）：分類できない　データなし
残留性・分解性：データなし
生体蓄積性：データなし
土壌中の移動性：施肥にあたっては、包材裏面の「施肥量」を参照し、詳しくは最寄りの JA にお問い合わせ下さい。
オゾン層への有害性：データなし

［ポリエチレン（合成高分子）］
海洋環境有害性　：　HME に該当する

閉鎖性水域では水質の富栄養化をもたらすので、排水については「水質汚濁防止法」の排水基準を守ること。

製品安全データシート

１３　廃棄上の注意

１．下水、河川等に直接流さない。
２．「廃掃法」にしたがって処理する。
３．燃やさない（不燃物であるが加熱すると有害ガスを発生する）。

１４　輸送上の注意

国際規制

国連番号	:該当なし
品名	:該当なし
国連分類	:該当なし
容器等級	:該当なし
IMDG（国際海上危険物規則）	:該当なし
ICAO-TI(国際民間航空機関技術指針／IATA-DGR（国際航空運送協会危険物規則）	:該当なし
国内規制	:下記の法令に従い、規定の積載方法、容器等によって輸送する。 船舶安全法，航空法，湾則法
輸送の特定の安全対策及び条件	:1.雨水等による水濡れ防止を行う。 2.破袋、荷崩れ等を起こさぬよう適切な対策をとる。

１５　適用法令

肥料の品質の確保等に関する法律	:指定配合肥料
消防法	:該当しない
労働安全衛生法	
第 57 条	:表示対象物質（結晶質シリカ）
粉じん則	:粉じんが発生する屋内作業場は粉じん則が適用される。粉じんを多量に吸入した場合、肺障害等の健康障害のおそれがあるため、作業環境測定を行うとともに、その結果に基づいたリスクアセスメントを行うこと。
船舶安全法	:該当しない
航空法	:該当しない
湾則法	:該当しない
化学物質排出把握管理促進法	:該当しない

１６　その他の情報

1)本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
2)本文中の注意事項は通常の取扱いを想定しておりますので、製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。
3)当社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。
4)本 SDS の危険有害性は、以下の情報・基準を元に作成いたしました。
・厚生労働省「職場のあんぜんサイト」の GHS 対応モデル SDS

製品安全データシート

・当社原料メーカーから入手した原料 SDS
・JISZ7252:2019「GHS に基づく化学品の分類方法」
・「危険物船舶運送及び貯蔵規則」

本製品については、下記にお問い合わせください。

会社名　　；ジェイカムアグリ株式会社
連絡先　　；生産管理本部
住所　　；東京都千代田区神田須田町 2-6-6　ニッセイ神田須田町ビル
電話番号　；03-5297-8904
ＦＡＸ番号；03-5297-8908
緊急連絡先；水俣工場
電話番号　；0966-63-2235